

とっとり 土地改良だより



発行
みどり
水土里ネットとっとり
鳥取県土地改良事業団体連合会
〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地
TEL (0857) 38-9500
FAX (0857) 38-9577
印刷 中央印刷株式会社



農業・農村フォトコンテスト2025入賞作品「冬将軍大暴れ」江府町

目次	○新年のご挨拶	鳥取県土地改良事業団体連合会 鳥取県 農林水産部 農業振興局	会長 松本 昭夫	2
	○年頭のごあいさつ	全国土地改良事業団体連合会	農地・水保全課長 足立 誠	3
	○新年にあたって	全国水土里ネット会長会議顧問	会長 二階 俊博	4
	○令和7年度 農業農村整備の集い	参議院議員 進藤金日子		5
	○令和8年度農業農村整備事業の予算編成と事業制度等に関する提案・要望活動			7～8
	○中部土地改良事業推進協議会が滋賀県で視察研修			9
	○東部土地改良事業推進協議会が岡山県で視察研修			10
	○令和7年度中国四国ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会			11
	○とっとり水土里の女性会 味噌づくりを実施			12
	○とっとり水土里の女性会が研修会を開催			12
	○令和7年度男女共同参画推進大会inくまもと			13
	○大区画化等加速化支援事業が“いよいよスタートします！”			13
	[シリーズ]			
	○あつまれ、みどり水土里のなかまたち			14
○編集後記			14	

新年のご挨拶

鳥取県土地改良事業団体連合会
会長 松本 昭夫



年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられ、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和8年度の国の土地改良関連予算は、令和7年度補正予算で2,439億円とともに、令和8年度当初予算4,504億円が閣議決定され合わせて6,942億円となり、前年度より442億円上回る予算が見込まれております。これは、皆様からの力強い要望の声がしっかりと反映された結果であり、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

また、去年は県内で大きな災害は少なく一安心でしたが、夏に日本各地で猛暑が続き深刻な渇水が発生して農家の皆さんは、水の確保に御苦労されたと思います。さらには、令和の米騒動で、政府が米価格高騰対策として放出した古い備蓄米「古古古米」がスーパーに並ぶなど、消費者の不安や食料問題、農業政策の問題を映す言葉としてニュースやSNSで頻繁に使われ、流行語大賞の候補にもなりました。これまで、あまりなかった我国の米問題に国民が大きな関心を寄せたことは、逆に良かったのかも知れません。

一昨年に食料・農業・農村基本法改正を受け、令和7年に土地改良関係者の意見が反映された土地改良法の大きな改正が行われました。そして、新たな食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画が閣議決定され、我国農業の構造転換対策を今後5年間で集中的に実施することとなりました。これを受けて本県は、県内農地の大区画化と担い手への集積をさらに推進すべく本年度から「鳥取県大区画化等推進協議会」（仮称）が設置される予定です。本会としてもこの協議会と協力し、未来のとっとり農業を見据えた農家の自主自立をしっかりと支援していきます。引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、会員の皆様及び関係各位のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

役員一同

会長 松本 昭夫
副会長 吉田 英人
〃 田邊 雄一
専務理事 中村 均
理事 金兒 英夫
〃 星見 健蔵

理事 山崎 正美
〃 井中 信一
〃 伊藤 英之
〃 竹口 大紀
〃 中田 達彦
〃 西尾 博之

理事 竹内 健
〃 前岡美華子
〃 檀床 和子
代表監事 竹本 芳宏
監事 宮脇 正道
〃 福島 公明

新年のご挨拶

鳥取県農林水産部農業振興局

農地・水保全課長 足立 誠



新年あけましておめでとうございます。

皆様には日頃から農業農村整備事業の推進に当たり、多大なるご協力とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は空梅雨に加えて梅雨明けも早かったことから、平成6年以来およそ30年振りの異常渇水の年となりました。鳥取県では水稻の出穂期と重なることから生育への影響が懸念されたため、例年以上に番水・節水の呼び掛けを行うとともに、7月31日に「渇水対策等緊急事業」を急遽創設してポンプの購入費用・リース料・燃料代等、市町村と連携しながら皆様への支援を行って参りました。これらの支援が干ばつの被害を最小限にとどめ、少しでも皆様のお役に立てたようであれば幸いに思います。

また、国においては、令和6年に改正された食料・農業・農村基本法に基づく食料・農業・農村基本計画が閣議決定され、9月にはこれらを踏まえた新たな土地改良長期計画（令和7～11年度）が策定されました。この中では農地の区画拡大、中山間地域における省力化等の生産基盤の整備に加え、老朽化する農業水利施設等の保全に対しても施策を講じるように位置づけられ、皆様の地域においても取り組まれている日本型直接支払制度を活用した地域農業の維持保全も含めて、農業農村整備事業への期待は益々大きくなっており、農業農村が担ってきた多様な役割が引き続き発揮されていくことを願っています。

さて、国の令和8年度農業農村整備事業予算は、前年度から40億円増の4,504億円、令和7年度補正予算と合わせると6,942億円が確保されました。この度の予算は、「大区画化やスマート農機導入による生産コスト低減に対応した基盤整備」「防災・減災、国土強靱化対策」「農地・農業水利施設等の保全管理」等に係る事業を推進していく上で必要な予算が計上されています。これは、農業農村整備事業に携わる皆様が農業農村整備事業の必要性・重要性を国等に要請して頂いた賜物であると思います。厚くお礼申し上げます。

鳥取県としては、全市町村で策定された地域計画に位置付けられている地域農業の実現に向けて、食を支える農業者の方々が将来に渡って安心して農業が続けられ、所得が向上するような地元のニーズに即した基盤整備を市町村等と連携しながら進めて参ります。また、ため池や農業水利施設の管理者の維持管理負担軽減につながるようなサポートを鳥取県土地改良事業団体連合会内に設置した「鳥取県ため池サポートセンター（令和3年4月設置）」、「鳥取県農業水利施設サポートセンター（令和6年4月設置）」において行うとともに、今後の地域農業の在り方に沿って農業水利施設の保全や地元負担が軽減されるよう関係者が一丸となって支援して参ります。

最後に、鳥取県では、農業振興の目指すべき姿と目標、実現に向けた事項を定めた「鳥取県農業生産1千億円達成プラン」の達成に向けて、様々な農業施策を推進しています。農業農村整備事業はこのプランの達成に向けた農業施策の一翼として取り組んで参りますので、引き続き皆様のご指導とご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。

年頭のごあいさつ

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊 博



令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保安全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」ですが、“前進”“飛躍”の年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算 政府原案においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされられますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進 藤 金日子



あけましておめでとうございます。鳥取県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義、地域主義に徹し、農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、去年は、農政、国土強靱化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。土地改良法改正、食料・農業・農村基本計画の策定、農業構造転換集中対策の開始、新たな土地改良長期計画と第一次国土強靱化実施中期計画も策定されました。10月に高市早苗内閣が発足し、日本経済強靱化計画（通称サナエノミクス）が提唱され、我が国の経済転換の期待も広がっています。

3月の土地改良法の改正では、農業生産の基盤の整備に加えて保全に必要な施策を講ずることが明定され、土地改良区が市町村等と連携していわゆる水土里ビジョンを作成し、土地改良施設及び末端施設の保全を行う仕組みを位置付けました。

4月に策定された食料・農業・農村基本計画では、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私はこれらの事業規模の積算を託され、実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「基盤整備による生産コストの低減」、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等に関する5つの目標を設定しました。

6月には第一次国土強靱化実施中期計画が策定され、令和8年度から令和12年度に推進が特に必要となる施策目標を設定、5年間の事業規模を「おおむね20兆円強程度」を目途としました。土地改良では、防災重点農業用ため池の防災・減災対策、農業水利施設等の老朽化・耐震化対策などを進めることとしています。

11月には、総合経済対策が閣議決定され、食料安全保障の確立、防災・減災・国土強靱化等を推進していく上で必要な対策と予算が盛り込まれ、土地改良関係では2,439億円が措置されました。

これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要です。特に農業構造転換集中対策期間の5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な土地改良予算は、令和7年度補正2,439億円と令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円（昨年比442億円増）となっています。予算のスムーズな執行に対する貴連合会による技術支援とご協力をお願いいたします。私は本年も土地改良の推進のため努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願いし、新年のご挨拶と致します。

令和7年度 農業農村整備の集い



農業農村整備の集い 全景

11月26日（水）砂防会館別館「シェーンバッハ・サポー」（東京都）に全国の農業農村整備関係者約1,200人が参集し、全国水土里ネット主催による「農業農村整備の集い」が開催されました。当日は、農林水産省から鈴木憲和 農林水産大臣、山下雄平 農林水産副大臣、広瀬建農林水産大臣政務官、山本啓介 農林水産大臣政務官ほか多数の出席がありました。また、政府・与党からは、城内実 日本成長戦略担当大臣、森山裕 自由民主党食料安全保障強化対策本部長、進藤金日子 全国水土里ネット会長会議顧問の出席がありました。

最初に、全国水土里ネット 二階俊博 会長が主催者として挨拶し、続いて鈴木憲和 農林水産大臣ほか、各来賓から祝辞がありました。その後、水土里ネット奈良 菅谷義寛 常務理事より以下の要請文が読み上げられ、全会一致で採択され、集い終了後に鳥取県選出の各国会議員に対し、この要請書を提出しました。

- 一 食料・農業・農村基本計画や土地改良長期計画に基づき初動5年間で農業の構造転換を集中的に実施するとともに、国土強靱化実施中期計画に基づいた取組を一層推し進めるため、農業・農村を支え、守り、我が国の食料安全保障の確保に欠かせない土地改良事業をスピード感を持って推進できるよう、当初及び補正予算とあらゆる機会において、別枠を含めた必要な予算をしっかりと確保すること。その際、地方公共団体の負担軽減のための一層の支援策を講じること。
- 二 土地改良法の改正を受けて、制度の趣旨及び内容の十分な浸透を図ること。また、水土里ビジョンの作成を始めとする農地・農業用水等の地域資源を次世代につなごうとする土地改良区や土地改良事業団体連合会、市町村等の取組への支援や地方財政措置の充実を図ること。
- 三 国内の農業生産の増大と食料自給力の確保のため、地域計画に基づく担い手への農地の集積・集約化、高収益作物の生産拡大、麦・大豆等の本作化、スマート農業の導入やほ場周りの管理の省力化を促し生産性向上に資する大区画化、中山間地域におけるきめ細かな整備等の農地整備と情報通信環境の整備を推進すること。
- 四 大規模災害からの復旧・復興や再度災害防止の取組を早急に進めるとともに、農地復旧についての農家負担の軽減に配慮すること。併せて、農村地域の国土強靱化のため、基幹から末端に至るまでの農業水利施設の更新・長寿命化や、豪雨・地震対策等を推進すること。
- 五 自然的、社会的、経済的な情勢変化を踏まえ、高い公共性・公益性を有し、食料の安全保障の確保に貢献している土地改良施設の維持管理に対する支援を充実させること。
- 六 農村地域を支えている多面的機能支払や中山間地域等直接支払について、活動組織の体制強化や支援範囲の拡大等を図るため、更なる制度の拡充及び必要な予算の確保を行うこと。
- 七 ICT、AI等を活用して、土地改良施設の管理の省力化・高度化等を図る取組を推進するとともに、中小規模の土地改良区を対象とした合併など、食料安全保障を支える土地改良区の運営基盤強化に対する支援を推進すること。
- 八 上記事項の推進に当たり、発注体制や施工業者の受注環境の整備等の事業の執行体制の充実を図るとともに、水土里ネットが有する技術、経験などを十分発揮できるよう配慮すること。

令和8年度農業農村整備事業の予算編成と 事業制度等に関する提案・要望活動

11月26日（水）、27日（木）の2日間に亘り、鳥取県農業農村整備事業推進協議会、東部・中部・西部土地改良事業推進協議会、鳥取県農地・水・環境保全協議会、鳥取県土地改良事業団体連合会が財務省、農林水産省、国会議員に農業農村整備事業に係る提案・要望活動を実施しました。

【提案・要望内容】

要望1 食料・農業・農村基本計画の目標の実現と農業の構造転換を集中的に実施するための農業農村整備関連施策の強化と予算の確保について

- 食料・農業・農村基本計画を着実に進めていくため、農地中間管理機構関連農地整備事業を含めた農業農村整備関連施策を強化するとともに、計画的かつ着実に実施できるよう十分な予算を確保すること。
- 農業の構造転換を集中的に推し進め、生産性の抜本的向上による食料自給力の強化とともに、農業経営の収益力の向上を通じた成長産業化及び食料安全保障の確保のため、コストの徹底的な低減に向けた農地の大区画化などを集中的・計画的に推進できるよう、施策の充実強化を行うとともに、機動的・弾力的な対応により必要十分な予算を確保すること。
- また、人手不足による労務費の増加、資材価格の高騰、円安による輸入資材価格の上昇等を要因にした工事価格上昇に対し、必要十分な予算を確保すること。

要望2 防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進について

- 第1次国土強靱化実施中期計画の推進施策である防災重点農業用ため池緊急整備事業に係る地財措置について、防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策と同水準になるよう拡充すること。

要望3 農村地域の多面的機能を発揮するための支援について

- 多面的機能支払交付金制度に取り組む活動組織が持続的かつ、活気に満ちた活動ができるよう必要十分な予算を確保すること。
- 特に資源向上支払（施設の長寿命化）への必要十分な予算を確保すること。

要望4 土地改良区の運営基盤の強化について

- 農業集落が小規模化・高齢化する中で、土地改良区が主体となって、水系の末端も含めた水利施設全体で保全活動が行えるよう、土地改良区の運営基盤の強化や水土里ビジョンの支援制度の充実を図ること。
- 土地改良区が自ら経営改善に向け当事者意識を持ちつつ、地域農業基盤の施設保全技術を持った人材や広域的な農村エリアにおける調整能力に秀でたリーダーの育成により、土地改良区運営への多様な参画を促す環境づくりを支援すること。
- 水土里ビジョン推進にあたり、土地改良区が意欲的にビジョン策定を行い、施設保全に力強く邁進できるよう、土地改良施設維持管理適正化事業の地元負担の軽減など、更なる充実を図ること。

【提案・要望者】

鳥取県農業農村整備事業推進協議会	副会長	松本昭夫	
鳥取県農業農村整備事業推進協議会	監事	宮脇正道	（湯梨浜町長）
中部土地改良事業推進協議会	会長	山崎正美	（関金土地改良区理事長）
西部土地改良事業推進協議会	副会長	田邊雄一	（箕蚊屋土地改良区理事長）
鳥取県農地・水・環境保全協議会	会長	松本昭夫	
鳥取県土地改良事業団体連合会	会長	松本昭夫	

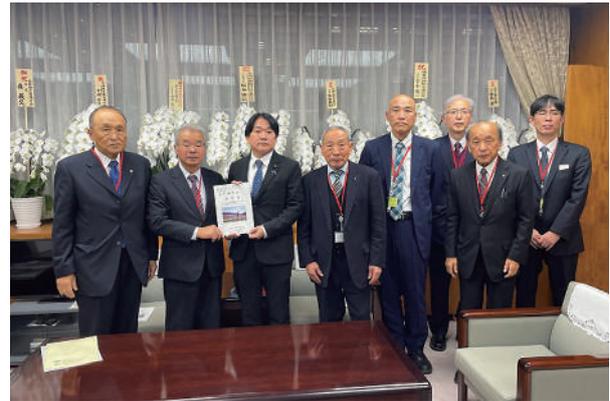
[提案・要望先]

財務省	舞立昇治	財務副大臣	宮下賢章	主計局主計官
農林水産省	山下雄平	農林水産副大臣	松本平	農村振興局長
	青山健治	農村振興局次長	石川英一	農村振興局整備部長

国会議員	石破茂	衆議院議員	赤澤亮正	経済産業大臣
	青木一彦	参議院議員	藤井一博	参議院議員
	出川桃子	参議院議員	進藤金日子	参議院議員



舞立昇治 財務副大臣



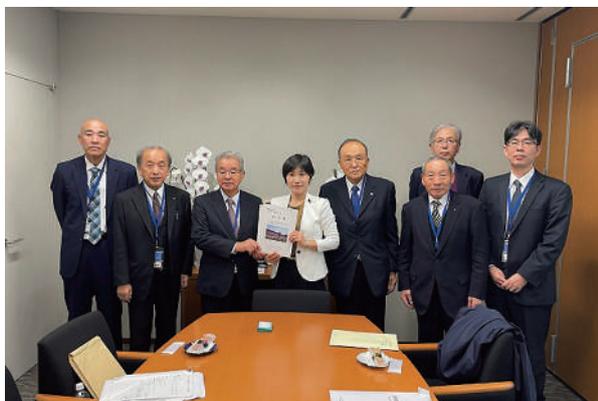
山下雄平 農林水産副大臣



石破茂 衆議院議員



藤井一博 参議院議員



出川桃子 参議院議員



松本平 農村振興局長

中部土地改良事業推進協議会が滋賀県で視察研修

中部土地改良事業推進協議会（会長 山崎正美）が、11月13日（木）～14日（金）に滋賀県において視察研修を行いました。この研修は、会員の行う土地改良事業の推進、調査研究を行う目的で17名が参加し、滋賀県東近江市にある東近江農地整備事業所と、長浜市にあるヤンマーミュージアムを視察しました。

東近江農地整備事業所は令和7年8月19日に開所したばかりの事業所で、県内初の国直轄ほ場整備事業の実施を目的とし、八日市地区の16集落にまたがる681haの農地において、大区画化、農道や用排水路の整備、スマート農業機械が導入できる基盤の整備を行うとのことです。

研修では、農林水産省 近畿農政局 東近江農地整備事業所の中野所長と、杉内工事課長より、事業の必要性、事業計画（区画整理、農業用排水、営農、埋蔵文化財）の説明を受け、埋蔵文化財包蔵地で工事を行う場合は、保存と費用抑制の目的で文化財の保護盛土を行うとのことでした。続いて、東近江市農村整備課の渋谷主事より東近江市スマート農業推進の取組みについて説明を受け、今後の展望として、市のスマート農業実証事業としては令和6年度で完了したが、国営事業の中で営農実証を引継ぐ形で令和7年度も継続して進めていくとのことでした。意見交換では、「パイプ灌漑で地下埋設だと漏水した箇所をなかなか見つけられないが、良い方法があるのか」、「どういう形で大区画化していくのか、あぜを取るだけなのか、維持管理の方法は」「営農者の平均年齢は」など、活発な意見交換ができました。意見交換後、八日市公設地方卸売市場に移動して、（株）東近江あぐりステーションが担う中規模流通について説明を受け、地域の農家から安定的に農産物を買取り袋詰めして、スーパーや小売店へ短い流通経路で地域の消費者に農産物を届ける仕組みで、生産者は大規模、小規模のほか新たに中規模流通の販路を利用できるとのことでした。

続いて、ヤンマーミュージアムを訪れ、ミュージアム内の研修室にて「ヤンマーのスマート農業について」と題し、アグリサポート部の小林部長より、日本の農業が直面する課題解決として、スマート農業の期待が高まっており、鳥取にも無人化ロボットトラクターを数台導入していただいているとお話がありました。研修後はミュージアム内の見学や体験を予定していたのですが、時間の余裕がなく研修のみになってしまい、参加者のみなさんには申し訳ないことをしました。

2日間の視察研修を終えて帰路につきましたが、研修先では雨が降ることもなく、無事に視察研修を終えることができました。



研修の様子（東近江農地整備事業所）



ヤンマーミュージアムで記念撮影

東部土地改良事業推進協議会が岡山県で視察研修

東部土地改良事業推進協議会(会長 吉田英人)が、12月18日(木)～19日(金)に岡山県(笠岡市・総社市)において視察研修を行いました。この研修は、会員の行う土地改良事業の推進、調査研究を行う目的で10名が参加し、岡山県笠岡市にある有限会社エーアンドエスと、総社市にある農事組合法人山田営農組合を視察しました。

1日目の有限会社エーアンドエスでは、笠岡湾干拓地約1,200haのうち150haの農地を借り受け、キャベツ、玉ねぎを栽培している農業生産法人です。はじめに、現地視察として玉ねぎほ場(1区画10ha・500m×200m)や、数億円を投じて建設された野菜貯蔵施設などを見学し、その後の座学では、同社の取り組みについて説明を受けました。契約栽培に特化することで「近隣生産者の販路を阻害しないこと」や、「規格外野菜の無償提供(学校給食等)」といった地域貢献を実践していることが紹介されました。また、持続可能な農業を目指した人材確保・育成の取り組みとして、「社員・パートの安定雇用」「出勤の自由化」「閑散期の雇用確保」など、働きやすい環境づくりを進めていることも印象的でした。さらに、大規模農業による機械化の中でも、機械と人の役割分担を明確にすることで農業技術や経験・体力に不安のある人でも働きやすい体制を整えていました。また、スマート農業技術の導入により、栽培管理の効率化や労働コスト削減、データ活用による品質向上・収量増加を図っていることも紹介され、説明を担当された入社2年目の社員の方が、自身の仕事を楽しそうに語っていた姿が印象的で、同社の職場環境の良さや農業への前向きな姿勢を感じることができました。

2日目は、総社西公民館山田分館において、山田営農組合の役員6名の方々と意見交換を行いました。山田営農組合は、平成9年から区画整理に取り組み、平成18年に「山田営農生産組合」を設立して大型機械・施設の整備を進め、その後、さらなる経営安定を目指す中で、平成23年に現在の農事組合法人を設立し、総社市内で初めての集落営農法人となりました。

意見交換では、「法人化した際のメリットは何か」「担い手の人数や年齢構成について」「組合員への利益分配の方法」など、法人化に関する質問が多く出されました。山田営農組合からは、「現在は米価が高騰しているものの、こうした状況が長期的に続くとは考えておらず、今後もWCSを中心とした営農を進めていくこと」や、「ふるさと納税返礼品として取り組んでいる『なた豆茶』が好評であること」などのお話を伺いました。最後に、参加者全員にお土産として米粉をいただきました。

東部土地改良事業推進協議会は、2年に1回視察研修を実施しています。参加された各土地改良区等の今後の運営等の参考となれば幸いです。



1区画10ha・100×500(笠岡湾干拓地)



山田営農組合との意見交換

令和7年度 中国四国ブロック換地関係 異議紛争処理実務研修会

9月25日（木）26日（金）の両日にわたり、中国四国管内の換地担当技術者48名が参加し「令和7年度中国四国ブロック換地関係異議紛争処理実務研修会」が、松山市の「ホテルアイスル」に於いて開催されました。

協議・検討された異議紛争処理項目は以下の2事例になります。

- ・「分筆登記が困難な地番有道水路について、登記簿から抹消し法定外公共物（無地番の道路・水路）として、換地処分した事例」（島根県）
- ・「相続人全員が相続放棄した現地確認不能地について、所有者不明土地管理人を選任し換地処分登記を行うこととした事例」（香川県）

島根県の事例は、換地に伴う分筆登記を行うにあたり、延長の長い地番有道水路の境界確認等に多大な手間と時間を要することから広大地扱いとすることを法務局に相談したが認められなかったため、市の地籍調査課に相談し、当該地を登記簿抹消し法定外公共物とすることで分筆登記を行わず換地処分登記が出来た事例でした。当該処理を行う事が出来るかどうかは、関係機関の協力によるところが大きいため各行政機関との協議調整の重要性を示唆する事例であったとの意見がありました。

また、香川県の事例は、現地確認不能地内にある登記名義人が亡くなったため相続登記を行う事としたが、相続人の死亡や相続放棄がなされたため「所有者不明土地管理制度」を地方裁判所に申請し、その後、権限外行為許可申立の申請を行い不換地として換地処分登記を行った事例でした。「人単位」の財産管理制度から「特定の土地・建物」に特化した財産管理制度が令和5年度に施行されたことにより、当該制度の需要が今後高まっていくとの見解が示されました。

最終日に、「所有者不明農地への対応について」を議題として、各県の対応状況を発表し参加者間で活発な意見交換がなされました。本県では未だ対応した事例はありませんでしたが、他県から多くの意見を聞く事出来、大変有意義な研修会となりました。



研修会の様子



農林水産省 藤田 聡 調査係長の挨拶

とっとり水土里の女性会 味噌づくりを実施

11月27日（木）大山町農村環境改善センターにおいて、味噌づくり体験を会員等22名が参加して行いました。昨年度、初めて味噌づくり体験を実施しましたが、できた味噌がとてもおいしいと会員に好評で、ぜひ今年もやりたいとの要望がよせられ、昨年度に続き2回目の開催となりました。講師は、昨年度に引き続き、女性会会員の美柑さん（稲光井手・大谷溜池・松尾溜池土地改良区事務員）に講師をしていただきました。まず、3日前から準備をしておいた米麴と圧力釜でやわらかく煮た大豆と塩を混ぜ合わせました。その後、混ぜ合わせたものをミンチ機にかけ、空気を抜くようにみそ玉を作りジッパー袋に平らにしながら詰め完成です。ミンチ機にかける工程では、みそ玉をつくる人、重さを測る人、袋の中でみそ玉を平らにする人に分かれ、あっという間に出来上がりました。今回作ったお味噌は半年冷暗所で寝かせて発酵させることで私たちが普段使っているお味噌の色になるそうです。おいしい味噌が出来上がるのが、今から待ち遠しいです。



米麴と塩を混ぜている様子



ジッパー袋に味噌をつめる様子

とっとり水土里の女性会が研修会を開催

12月9日（火）に「とっとり水土里の女性会」が東伯地区土地改良区連合にて研修会を参加会員17名で実施しました。檀床会長の挨拶のあと、大同警備保障有限会社 西山方志営業課長より「狙われにくい自分の家の防犯」と題して講義がありました。空き巣等が侵入しやすい家の特徴や、侵入の手口、侵入者の心理行動や防犯対策についてお話いただきました。庭の草取りをしている間やお隣と少し話をする間でも無締りによる侵入による被害があることや都会のほうでよく耳にする強盗については最近では地方に被害が広がっているとのことで、日頃より防犯意識を高めることが必要だと感じました。

次に鳥取県土地改良事業団体連合会 津中孝総務企画課長より「相続の手続きについて」と題して講義がありました。最後に鳥取県土地改良事業団体連合会 吉村香織部長より「基盤整備をとりまく最近の状況」題して情報提供がありました。

研修会の後、昼食を取りながらの意見交換会を行い、会員同士、活発なコミュニケーションをとることができました。



檀床会長のあいさつ



研修会の様子

令和7年度 男女共同参画推進大会 in くまもと

令和7年11月4日、メルパルク熊本（熊本市）で令和7年度 男女共同参画推進大会 in くまもとが来賓等18名を迎え、全国から223名が参加して開催されました。

くまもと水土里ネット女性の会 森下会長と、全国水土里ネット女性の会 西会長から「女は度胸と愛嬌」を合言葉にこの会で相互の連絡をとり、キャリアアップに繋げ、男女が力を合わせて農業農村を守っていこうと開会の挨拶がありました。

基調講演は福岡県みやま市農業委員を23年務め、今年から山川地区土地改良区理事をされている、徳永順子様から「やる気スイッチは、押しつ押しされつ」と題して講演がありました。

翌日は現地研修会があり、秋津飯野地区と熊本城の復興について研修をうけました。平成28年熊本地震で被災した秋津飯野地区は創造的復興として農地の大区画化を行い、復旧までの間は大豆や麦を栽培することで農業取得を確保できたとのことでした。30年前の土地改良事業により乾田化していたことで、元々リスク分散型農地だったことに気づけたとのことでした。

この大会に参加し、女性が農業経営に関わることで経営が上向きになることが多いが、基盤整備があってこそであり、また、大区画化やスマート農業を推進し、女性だけでなく誰でも農業への参画がしやすい環境づくりが必要であることを感じました。



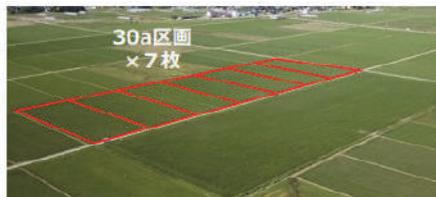
基調講演の様子



現地研修の様子

大区画化等加速化支援事業が “いよいよスタートします！”

食料・農業・農村基本計画に基づき、今後5年間で農業構造転換を推進し、生産性の向上を図るため、法人等の農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組を支援します。

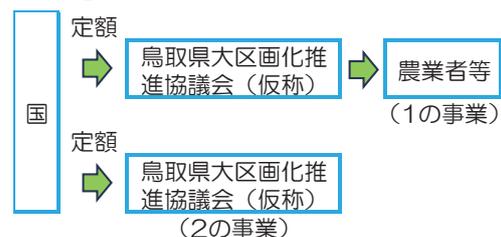


簡易な基盤整備により区画拡大



【鳥取県内の事業に関するお問い合わせ先】 水土里ネットとっとり (0857-38-9500)

- 1 農地の区画拡大や省力化整備に係る基盤整備
 【定額上限】 区画拡大 7万円/10a
 畦畔除去 4万円/100m
 暗渠排水 14万円/10a 等
- 2 調査・調整活動等に係るソフト事業
 【定額上限】 300万円/地区





愛と絆のある農業・農村をめざして
みどりの水土里を愛する
なかまたちを順次で紹介

赤碕町土地改良区 主事 眞山 友彰

赤碕町土地改良区の眞山といいます。改良区に勤め始めて、今年度でちょうど10年目になります。改良区の職務と併用して多面的機能支払及び中山間地域等直接支払事業広域組織の事務委託も担っています。改良区だけでは対応が困難な事案にも対処できるので非常に助かっています。今後の課題としては、組織の拡大をしていければと考えています。

今年度の夏は前年にも増して暑く、梅雨もあっという間に終わり、7月にはほとんど雨が降らずで、鳥取県だけではなく全国的に干ばつ状態が続いて稲作に支障が出たという話をよく耳にしました。赤碕地区には船上山ダムがありますが、連日の干ばつによりダムの貯水量が8月末でほぼ0%になってしまうということで、関係各所と協議して湯水対策も行いました。そんなとき、8月のちょうどお盆休みのタイミングで雨が降って貯水量が回復したので胸を撫でおろすことができましたが、他県ではお盆の雨で豪雨被害がでているなどニュースで見ましたので、ここ近年の気象状況には頭が痛いところです。

さて、仕事関連についてはこんなところで、自分の近況などを少しご紹介させていただきます。



再度購入した真山号



友人とツーリング

自分は趣味でオートバイに乗っています。大学生のころから3年ほど前まで乗り続けていたのですが、事情があり手放していました。ですが、どうしてもまた乗りたくなってしまい、秋頃懲りずに再度購入してしまいました。アメリカ製「Harley-Davidson (ハーレー・ダビッドソン)」というメーカーの1台です。約20年前に作られた車両ですが、丁寧に扱われていたのか今のところ問題なく動きます。県外などいろいろなところへ行ってみたいのですが、遠方へ行く際に故障などのトラブルにみまわれるのが怖くて、普段は鳥取県内や島根・岡山ぐらいをぶらぶら走っています。鳥取県は冬になると雪が降るので、バイクに乗れなくなるのは少しもどかしいですが、次の春に問題なく動かせるようにメンテナンス等怠らないようにしたいと思います。



編集後記

新年あけましておめでとうございます！2026年丙午ということ
で、非常にエネルギーに満ちあふれた一年になるようですね！家
では新しく購入した人をダメにするクッションに身をくるみ、ゲーム三昧の新年
を迎えました。ハヤクアタタカクナレの呪文を唱えながらエネルギーを溜めて今
年も頑張ります！（福政）